

第19回日本・クウェート民間合同委員会

第19回日本・クウェート民間合同委員会は、2015年2月4日（水）、クウェート商工会議所で開催されました。

本委員会には、来賓として Hind Sabeeh Al-Sabeeh 社会労働大臣兼計画開発担当大臣、辻原俊博クウェート駐箚特命全権大使、伊藤伸彰経済産業省大臣官房審議官（通商戦略担当）が出席され、日本側からは齋藤宏共同議長（㈱みずほファイナンシャルグループ名誉顧問）はじめ本委員会メンバーを中心とする各企業・団体の代表者、政府関係者、プレゼンター、さらにオブザーバーを含め約60名が出席しました。一方、クウェート側からは、Khaled Abdullah Al-Sagar 共同議長（クウェート商工会議所副会頭）はじめ、国家計画開発最高会議、Kuwait Institute for Scientific Research、電力水省、逓信（交通）省、保健省などのクウェート政府代表者、及びクウェート側委員の合計約20名が出席しました。

オープニングセッションでは、アル・サグル共同議長より、始めに本会議直前に発生したイスラム国による日本人殺害事件への深い哀悼の意が表され、次に前年度比2倍にあたる216億ドル規模の国家開発計画に対する投資実行の用意がある事、新組織 Kuwait Direct Investment Promotion Authority の下で外国からの直接投資を呼び込む体制を整備した事等が発表されました。

次に齋藤共同議長より、「日本企業が競争力を取り戻しつつある一方、クウェートでは外国からの投資を呼び込むべく矢継早に改革を打ち出していること」が指摘されました。続いて来賓のサビーフ大臣からは、過去約20年間に渡る同合同委員会がクウェート国の発展に継続的に貢献してきた事への謝辞と共に、同国が有する次期5か年計画達成の為、日本国が持つノウハウや技術を以ての継続的な協力の要請がありました。

引き続き伊藤大臣官房審議官は、宮沢経済産業大臣からの「東日本大震災に際してのクウェートからの支援に御礼をのべ、また日本企業の持つ技術がクウェートの発展に一層貢献できる」とのメッセージを代読されました。

同セッションの最後、辻原大使より、日本企業のクウェート市場における本格的な復帰のシンボルとして、Azzour North IWPPプロジェクト及び Clean Fuels Project を受注した事への言及、そして今後の更なる協力姿勢の証として、昨年10月のSabeeh大臣訪日の際に交わしたインフラ・交通分野における協力覚書に調印した事が述べられました。

同委員会の第1セッションでは、最高計画開発会議事務局計画担当事務局長補である Dr. Reyadh Yousef Al-Faras が「クウェート5か年計画」、クウェート銀行協会の Dr. Hamad Ali Al-Hasawi 事務局長が「クウェート経済の現状」、みずほ総合研究所（株）の山本 康雄 ロンドン事務所長が「日本経済の概要」に関する説明を行いました。

第2セッションでは、インフラストラクチャーをテーマとして、クウェート側からは、Kuwait Institute for Scientific Research の Executive Director である Dr. Salem Al-Hajraf が、「再生可能エネルギーへの投資」について、Public Authority for Housing Welfare の Eng. Naser Khraibet が「クウェート住宅プロジェクト」について、電力水省次官補である Eng. Iyad Al-Falah が「2030年までの発電および造水プロジェクト」について、逓信（交通）省アドバイザーである Mr. Najeeb Al-Menifi が「メトロと鉄道プロジェクト」について、さら

に当日飛び入りで参加した Kuwait Authority for Partnership Projects が「発電プロジェクトに関するアップデート」と題する発表を行いました。

対する日本側からは、(株) 日建設計ドバイ事務所の建築家であるサルタウィ メイスさんが「中近東における都市開発マスタープラン」について、住友商事(株) 小野塚恭彦電力事業第二部長が「クウェートにおけるインフラ開発へのコミットメント」について、千代田化工建設(株) 太陽熱・再生可能エネルギービジネス開発チームの田澤 秀明シニアマネージャーが「溶融塩トラフ型太陽熱エネルギー」について、また三菱重工(株) の土田 昭彦ドバイ事務所長およびドバイ事務所 Director である Mr. Elie Rizk が「クウェートにおける活動と製品紹介」について発表を行いました。

第3セッションでは、第18回民間合同委員会と同様に医療をテーマに取り上げました。クウェート保健省の Dr. Ibtisam Al-Huwaidi が「老人介護におけるクウェートと日本の協力」について、対する日本側からは、日揮(株) 第3事業本部ライフサイエンスビジネス部の荒谷秀明グループリーダーが「JGCヘルスケアビジネス」についての発表を行いました。

最後に両共同議長が本日の議論の総括を行い、次回の日本・クウェート民間合同委員会を日本で開催すること、そして日程は事務局で調整することを確認して閉会となりました。

以上



サグル議長から記念品を授与される斎藤議長



日ク両議長と来賓の方々



委員会の雰囲気



委員会後のレセプションで談笑する両議長